

<p>活動タイトル</p>	<p>児童養護施設の子ども達が通う幼稚園や小中学校にCAPを届ける</p>	<p>団体名</p>	<p>NPO法人 CAPみしま・大阪</p>		
<p>1年間の活動 (アウトプット)の目標 (事業全体)</p>	<p>【2018年9月】・第1回、第2回ミーティング ・講演会の講師、日程（決定）、会場（未定、） ・アンケート調査についてのアドバイスを得る専門家決定。面会し、資料作成・リーフレット作成決定、依頼 【10月】・第3回、第4回ミーティング開催 ・講演会会場決定、チラシ作製依頼 ・教育委員会等の講演会の後援依頼 ・リーフレット内容詳細決定 ・施設の子どもたちのアンケートの可否決定 ・講演会、ワークの事後アンケート内容決定 【11月】 ・講演会チラシ配布 ・講演会広報 ・モデル地域を目指す施設でのワーク実施 ・教育委員会、周辺の学校の訪問 ・高槻市での実施に向けて動く 【12月】 ・新リーフレット完成・周辺幼稚園・小中学校でのワーク実施日程を決定 【2019年1月】・地域でのワーク日程が決定していなければ、再度教育委員会や学校に向かう・講演会開催 【5月～6月】・地域の幼稚園、小中学校での教職員、保護者ワーク実施のための打ち合わせ ・教職員ワーク、保護者ワーク実施 /【6月～7月】 ・就学前実施（幼稚園） ・ベーシック実施（小学校） ・中学生暴力防止プログラム実施（中学校） 【8月】・振り返り</p>		<p>■活動風景</p>  <p>森田ゆりさん 講演会 2019/1/18</p>		
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況</p>			
<p>・森田ゆり講演会：茨木市と茨木市教育委員会の後援を得て、チラシを制作し、関係機関に郵送し、さらに電話もかけた。参加者は予想の半数となったが、講演内容は非常に好評であった。</p> <p>・グループの紹介リーフレット、ワーク終了後に子どもたちに手渡すリーフレット（修学前版・ベーシック版）のデザインを一新して印刷した。</p> <p>・講演会の後援を申請するときに教育委員会などに足を運ぶことになり、茨木市の教育プログラム実施状況の情報を探る。</p> <p>・茨木市内の幼稚園、小学校にはCAP類似のプログラムが入り、直ぐにはCAPの入る余地は難しいことから、まずは中学校での実施をめざす。</p> <p>・人脈をたより、中学の校長に連絡を入れてもらい、最初は挨拶。その後プレゼン、説明会と回数を重ね、担当の先生方の了解も得られ、全校でCAPの実施を受け入れていただけることになったため、2018年度の事業年度内には教職員ワークのみ実施した。</p> <p>・2年目以降に取り組む予定にしていた高槻市内の幼稚園、小中学校にも実施対象を広げ、幼稚園、小学校、中学校の支援学級で実施することができた。</p>		<p>・子どもワーク実施事業 最も実施したかった茨木市内の幼稚園、小学校での実施は実現しなかったが、中学校の実施が決定した。1～3学年で取り組んでいたためワークが長期にわたり、今年度の事業に収まらなかった。 ・高槻市での幼稚園、小中学校での取り組みは進んだ。低学年・高学年で1度ずつという目標は達成できず。今後実施の継続と低学年・高学年での実施をめざしたい。</p> <p>・おとなワーク実施事業 森田ゆり講演会：事前準備は考えられるすべてを行ったつもりだったが、参加人数が予想の半数。時間の設定、ターゲットを絞り切れなかったなど参加が少なかった理由を検証し今後に活かしたい。 ・参加者には好評だったが、今後の活動につながるような工夫が必要だった。</p> <p>・児童養護施設での子どもワーク実施事業 施設と地域の学校の両方でCAPワークを受けるに至っていないが、施設での実施は2019年度も継続する。特に、中学生ワークでは今まで以上に深まったワークを実施できた。</p>			
<p>■1年間の活動のまとめ</p>		<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■実施した人材育成策</p>	<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p>
<p>・念願だった新しいリーフレットを制作することができた。</p> <p>・地域の啓発として森田ゆりさんの講演会を開催できた。</p> <p>・CAP実施対象地域を茨木市から高槻市も含めての実施に広がったことで、実施を必要としている多くの幼稚園や保育所、小学校で実施することができた。</p> <p>・茨木市内で一番実施したかった中学校へは、多くの人の協力を得て、何度も学校に足を運び、CAPを説明する機会をいただき、理解を得ることができた。そしてこの中学校では全校でCAPを実施できることとなった。さらに保護者ワークは中学校区の取り組みとしての実施となり、幼稚園や小学校への広がりも期待できる。</p> <p>・今まで継続してCAPを実施してくれている児童養護施設は本年度も継続となった。また、近隣の保育所、幼稚園、小中学校での実施が増えており、丁寧な取り組みの成果であると感じている。</p>		<p>・目標を立てる際に自分たちの気持ちだけでなく、事前調査を十分しておくことが大切である。</p> <p>・何度も足を運び、信頼関係を作っていく、丁寧な説明とプレゼンが大切であり、効果的なプレゼンを事前に準備しておくことも必要がある。</p> <p>・教職員ワークは、休暇中の職員研修に入れてもらうと先生方もゆとりを持って参加でき効果的である。また実施時間についても柔軟な姿勢を見せることが必要である。</p>		<p>・J-CAPTAからトレーナーを招聘してスタッフ研修を実施した。</p> <p>・CAPプログラム提供先の先生が受講されたり、若い世代の受講生もいて、今後に向けての第一歩になった。</p> <p>・受講生に向けて丁寧なグループ紹介、活動紹介を行った結果、6人が2019年度の正会員として活動を開始している。</p>	<p>この1年間の活動を通じて 目標としていた中学校での全校実施にこぎ着け、また児童養護施設の子どもが多く通う高等支援学校への道筋も見え、学校と施設を繋ぐ第1歩 を達成しました。</p> <p>■受益者の変化（効果測定結果等）</p> <p>・事後アンケートの結果、参加者の8割以上はCAPは楽しい、そして役にたつと感じた。</p> <p>・小学生の事後アンケート自由記述の欄では、知らない人から声をかけられ怖くなった時どつすればよいかわかって安心した、護身術を教えてもらってよかった、との記述が多く見られた。</p> <p>・ワーク後のスタッフとのトークタイムに抱えている問題を話に来る子どもたちもいた。先生や学校にもつなぎ、子どもへの具体的な支援につながったと感じた。</p>